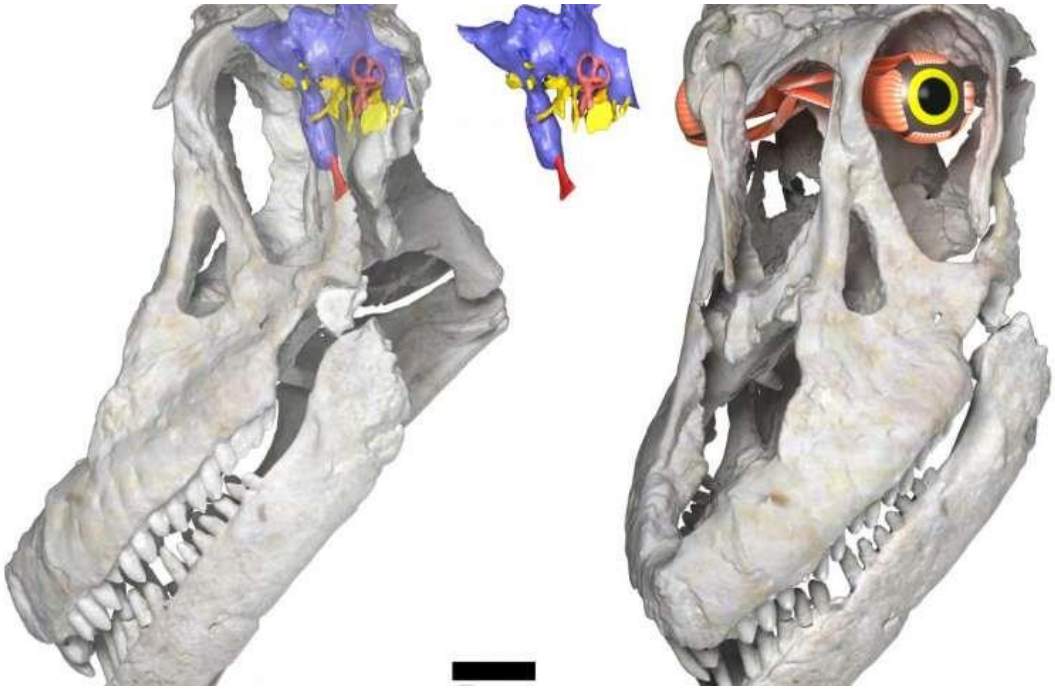
アルゼンチンで発見されたティタノサウルス類サルミエントサウルスの頭蓋骨

アルゼンチンのパタゴニアの中部に露出する 9500 万年前の白亜紀後期の地層から、ティタノサウルス類の恐竜の頭蓋骨や脊椎骨が発掘された。この恐竜は、サルミエントサウルス・ムサッチオイ（Sarmientosaurus musacchioi）と名づけられた[1]。

ティタノサウルス類の恐竜は草食で、首や尾が長いく、体の大きさの割に頭部が小さいのが特徴である。ティタノサウルス類の恐竜はこれまでに 60 種類が記載されているが、このグループに関する生物学的情報は乏しかった。今回発掘された頭蓋骨はほぼ完全に近い状態であり、眼球が大きく視力がよかったことや、内耳が発達していて、音を聴き取る能力を備えていたことが明らかになった。また、内耳にある平衡感覚からは、首を下げて地面に生えた植物を食べていたことが示唆された。

この恐竜の頭蓋骨の形態から、ティタノサウルス類は、ジュラ紀後期のブラキオサウルス科恐竜と近縁であることも明らかとなった。



[1] Martinez, R.D.F. et al. (2016) A basal Lithostrotian Titanosaur (Dinosauria: Sauropoda) with a complete skull: Implications for the evolution and paleobiology of Titanosauria. Plos. ONE 11(4):e0151661. Doi:10.1371/journal.pone.0151661.